



# さしっ子便り

唐津市立佐志小学校  
学校だより 第5号  
令和8年 6月8日(月)  
文責：校長 平山美代子

学校教育目標 「わたしらしく あなたらしく 輝くさしっ子」～気づき・考え・実行する子どもの育成～

<sup>おおぼたる</sup>「大蛍 ゆらりゆらりと <sup>とお</sup>通りけり」 <sup>こばやし いっさ</sup>小林一茶

夏の夜を大きな蛍が、ゆらりゆらりと光を放って飛んでいくよ、という意味。

私も自宅の庭で蛍に会いました。今年も夏がやってきたとうれしくなりました。

## 平和のたすきをつなぐ！ 5/29「6年生被爆体験講話」

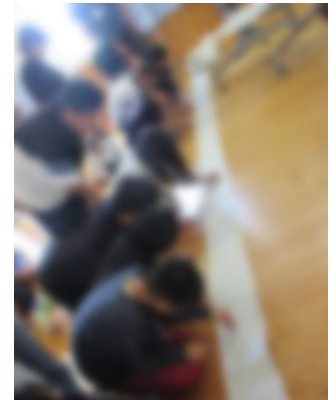
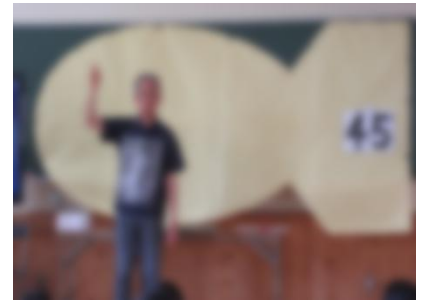
修学旅行の事前学習として、堀田雄二様を講師としてお招きし、被爆体験講話をしていただきました。堀田様は長崎平和推進協会に所属され、被爆者にかわって、戦争の悲惨さを後世に伝え、平和な社会の実現をめざしておられます。「どんな理由があっても戦争は絶対にしてはならない」「誰かに平和をつくってもらうのではなく、一人一人が平和をつくる主人公」堀田様の魂の訴えは子どもたちの心に響きました。

〈児童の感想〉

◆私が一番びっくりしたことはたった10秒の間に長崎が地獄になったことでした。たった10秒という短い時間にあんなことになるとは想像できません。黒こげの少年が丸田さんの友達だったことを聞いて、とても悲しかったです。ファットマンは、あんなに大きいのに、中に入っている爆弾の大きさはたった8cmぐらいだったことがびっくりしました。放射線は目に見えない怖いもの、体がボロボロになります。今も外国で意味のない戦争が続いているから大変です。少しでも早く終わってほしいです。戦争が終わった今、丸田さんが奇跡的に長生きでき、元気そう良かったです。戦争で亡くなった 73884 の星は、とても多いと実感しました。(6年 さん)

◆10秒で地獄になった長崎が一番印象強かったです。たった10秒で一気に地獄に変わり、亡くなった人が大勢いると知りました。直径8cmのプルトニウムで被害を受けた人がいっぱいいます。熱線、爆風、放射線で真っ黒こげになった人、真っ赤に焼けた人、大けがをした人がいて、原爆が落とされた長崎がどんな地獄か知りました。73884 人がなくなったこと、これからもずっと心に残し、平和を守りたいです。

(6年 さん)



「七万四千…とつもない数だ」  
つぶやきながら星の数を数える子どもたち

## 教育実習 5/11～5/29 ～日本体育大学 小島ひなのさん～

日本体育大学より3週間、養護教諭をめざし教育実習に来られました。日常的には教室を回って、給食を食べたり、児童玄関で毎朝温かく迎えたりと子どもにたくさん関わってくださいました。1年生には、授業で、健康指導もされました。すてきな先生になられると思います。



## 運動場除草作業・海水散布 ご協力ありがとうございました！

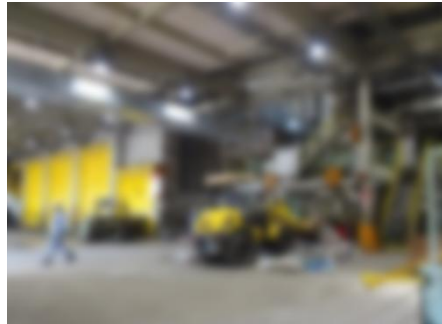
5/25・26 PTA有志、佐志消防団様、児童の協力で、運動場がきれいになりました。

子どもたちが安心して遊ぶ環境ができました。暑い中の作業、ありがとうございました。

## 5/29 4年社会科見学「久里浄水場」「唐津市清掃センター」「唐津浄水センター」 ～人々の健康や生活環境を支える仕事をまなぶ～



「久里浄水場」 できた水を試飲



「清掃センター」



「浄水センター」

4年生は社会科で、私たちの健康や生活を支える仕事について学習しています。生活になくてはならない大切な水、ごみの問題について考えました。この学びを生活の中に活かしてほしいと思います。市の3つのセンターを見学しました。

〈児童の感想〉

- ◆久里浄水場で、水道水の作り方を知りました。水道水は川から流れてくることを知りました。学校のプール80杯分の水道水を作っていると知っておどろきました。できた水を飲んでみると、いつも飲んでいいる水とは、ちょっと味がちがいました。ありがとうございました。(4年 さん)
- ◆清掃センターでは、ごみの量を計量器ではかることが分かりました。空きビンは色ごとに3つに分けられていることに気づきました。リサイクルにわたすまでの集める場所もわかりました。これからは、ポイ捨てをしないで、種類ごとに分けたいと思います。(4年 さん)
- ◆唐津市浄水センターを見学して、使われた水は13時間から15時間ぐらいできれいになることを知りました。地下にはパイプみたいなのがたくさんありました。下水道は400年前のインドが初めてだそうです。一日に25mプール60杯分をきれいになっているそうです。これからは下水道に水以外の物は流さないようにしたいです。(4年 さん)



## 5/27・28 5年生「自然体験学習～IN 波戸岬少年自然の家」

5年生は1泊2日で波戸岬少年自然の家で「自然体験学習」をしました。1日目は「インドアドアビンゴ」「カッター体験」、2日目は「野外炊飯」が主な体験活動です。「気づき・考え・実行する」というめあてのもと「時間励行」「立ち止まりあいさつ」「話を聞く」「協力する」などの具体的な約束をして臨みました。時間がたつにつれ、周囲の友達に目を向け、協力して活動していく場面がたくさん見られました。学年の仲が良く、学校で過ごしている時とは、また違う子どもたち一人一人のよさを発見しました。この学びが今後の学校生活に活かされることと思います。



「カッター体験」



「野外炊飯」



おいしいカレーが出来ました！

〈児童の感想〉

- ◆特に心に残ったのはカッターボートにのったことです。協力することの大切さがわかりました。カッターボートはみんなの心をつなげて、いきがぴったり合った時にしか動きません。みんなで重いボートを動かせた時はうれしかったです。重くてきつかったけど最高の思い出になりました。(5年 さん)
- ◆どの活動もわくわくしました。特にカレー作りは、6班のみんなと協力して食材を切ったり、食器を洗ったり、まきをわたりました。マッチで火をつけるのは苦戦したけど、出来上がったカレーはとってもおいしかったです。(5年 さん)
- ◆インドアビンゴは、班で協力して全部そろったのでうれしかったです。カッターボートは、最初は1組がすごく速く、2組がすごく遅れていました。でもみんなで協力したら雨もやんだし、1組にも追いつきました。一番心に残ったのは「カレーづくり」です。大変だったけど協力したら、世界一のカレーができました。

(5年 さん)